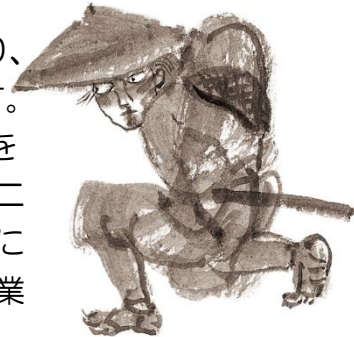


3年道德通信 第27号

第27回『恩讐の彼方に』



主殺しの大罪を犯した市九郎は出家して了海となり、贖罪のために難所に隧道を掘り抜くことを決意します。18年後、市九郎（了海）に父を殺された実之助は敵を討とうとしますが、敵は隧道が完成してからに決め、二人は掘り続けます。やがて隧道が完成した時、実之助には敵を討とうという気持ちはなくなり、成し遂げた偉業への驚異と感激の心でいっぱいになっていました。



贖罪のために難事業に取り組む僧と、彼に復讐を企てる若者を描いた小説を通して、「寛容の心」とはどんな心かを考えました。

みんなの意見

「寛容の心」とは、どんな心なのでしょう。

- 相手を認める許せるところ。人のために何かをしようという心。
- 今の状態を見て判断し、受けとめること。
- 「寛容の心」とは広い視野で物を見て判断する力だと思う。実之助も復讐の心だけにとらわれず、了海の全てを見て判断した。

今日の感想

- 20年もあきらめず成し遂げるのはすごいと思いました。
- ひとつのことをやり続けるのはすごいと思った。
- 悪行を重ねた市九郎が改心して、人のために何か役に立てることをしていたところが良かった。
- 昔は悪人だったかもしれないけれど、今は更生して一生懸命に人助けをしている姿は、せめてもの償いだと思った。
- どれだけ罪をおかしてもこうやって優しい気持ちになれると気づいた。自分の体を犠牲にしながら作業をしていた了海はすごいと思う。
- 許すことができる心を持っていたら、日々余裕を持って過ごせると思った。
- 一生懸命打ち込んで成し遂げたら、その分感動もするし、人の心を動かすこともできるとわかった。
- 心のさみしさがあると目的を失って敵を討つことばかり考えるけれど、目的が達成できて幸せな気持ちになるとそれを忘れるのだと思う。



「寛容の心」とは、どんな心なのだろう。

